

ひめまつ

42

宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武幸





ひめまつ 目次

(第四十二号)

表紙絵……島田武幸 題字……石川木魚 写真……写真部・編集部

巻頭言

私学の自信と誇り

校長 須賀 淳……………1

◇望まれる自主性の確立(生徒会会長に就任して)……………石川 智子……………4

◇二千三百人の力を結集(任務を終えて思うこと)……………山越 悦子……………5

〈声〉

集団生活に必要なもの

- 「他人の意見も尊重を」……………三年 上地江美里……………「自分をコントロール」……………二年 石塚真由美
- 「集団の中の向上を」……………三年 川島 達生……………「他人を思いやる心」……………一年 上野 浩美
- 「大切な人への気配り」……………三年 鈴木 華代……………「役割に応じ責任果たす」……………一年 中村 公美
- 「協力性と励まし合い」……………二年 小池 美和……………「団体生活即生きたること」……………一年 宮崎 和子

\*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)

- 「塩狩峠」……………三年 格和 千恵……………「黒い雨」……………二年 鈴木由香理
- 「車輪の下」……………三年 中嶋 一美……………「車輪の下」……………一年 大畑優美子
- 「羅生門」……………三年 田代 紀子……………「田舎教師」……………一年 久住 直子
- 「ひめゆりの塔」……………二年 室井 澄江……………「アンネの日記」……………一年 山口恵美子
- 「塩狩峠」……………二年 田淵 友子……………

◇作品集

詩 「三年」田崎 真美・磯 美由紀 他

短歌 「三年」高浜智英子・松本 直子・塚田 弥生 他

俳句 「三年」間詔由紀子・田代 佳子・杉田 七生 他



☆あとらんだむ

〔三年〕保坂 裕子・福村 晴美・星 幸恵 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

〔三年〕小池 厚子・服部 裕子・小泉 有紀・福田 清恵・相馬由美湖・若泉 友理

〔二年〕柴田真由美・小池 典子・一ノ瀬一恵・小野口晴美・諏訪 直美

〔一年〕上田ひろみ・遠藤 紀子・池田 直美

招待席

長田 善生・高柳 久・木嶋 侯子・角海 武・和久 誠

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ活動この一年

◆学友会の奉仕活動

★学園ニュース

☒告知板

附属中コーナー

P T A 役員・生徒会役員 その他

◎六十二年度生徒会報告

☒就職状況

☒職員住所録

☒編集後記・奥付



学園の四季



▶希望に胸をふくらませて晴れの入学式(四月八日)



大運動会で力強く奮闘する生徒代表(十一月三日)



▶高校入試は、300人の受験生を記録(六十二年二月三日)



「あった」「よかった」と中学の合格発表(二月十日)



▲「活発な活動を」と討議が続く生徒会総会(六月三日)

宇都宮短期大学附属高等学校

校歌

作詩 菅谷徳次郎  
作曲 野原幸夫

Musical score for the school song, consisting of five staves of music with Japanese lyrics written below the notes.

校歌

一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ  
学びの道筋を まさしくあれと

かたみに誓いて いそしみ励む  
教への庭こそ げに尊けれ

あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松  
変らぬ操は 千代万代と

かたみに祝いて いそしみ励む  
学びの庭こそ げに芽出度けれ

あわれ芽出度 この学びや



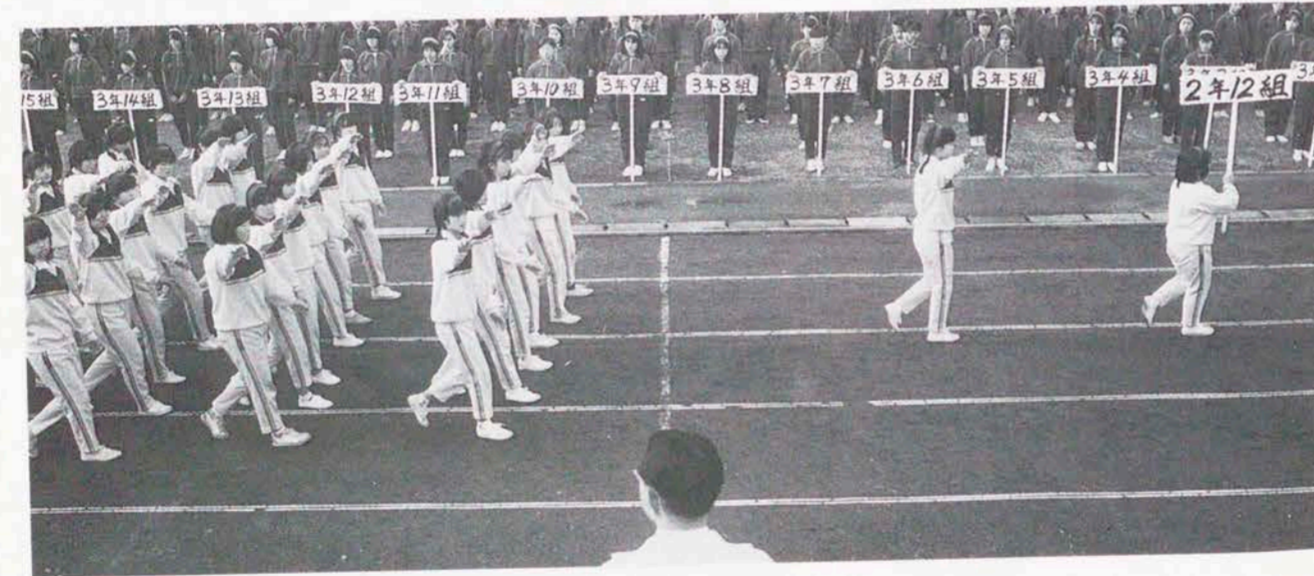
▶大きな希望とちよつぱり不安(一日入学)8位



▶「すごい感動だぜー組体操」(大運動会)7位



▲校長先生ご夫妻迎え張切る(キャンプ)8位



▲「立派でしょ堂々の入場行進」(大運動会)8位

◀2年生は大洗海岸で春の海を満喫(一日旅行)9位



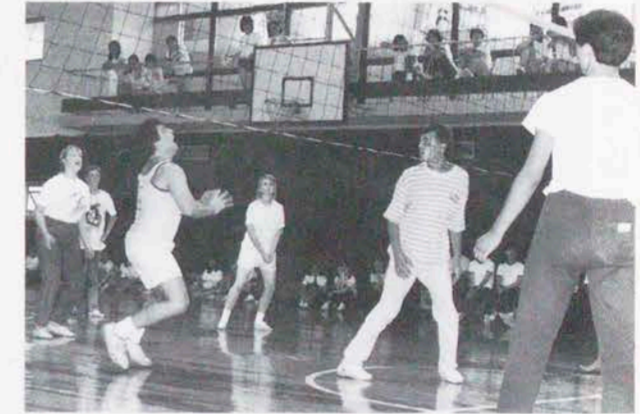
昭和62年度の校内展示会に、編集委員会では「あなたが主役」のテーマで学園生活の記録写真70点を展示しました。これは「ひめまつ編集部」が

### わたしが主役

1年がかりで本校の風物や行事等を撮影してきたもので、皆さんに好きな作品を投票していただきましたが、1位から10位までをご紹介します。



▲楽しいドリン先生の授業デス(英会話)1位



▲米高校チーム来校(親善バレーボール)2位



▲「サヨナラ」「先輩元気で」(卒業式の日)3位



▲誰の芸術作品か、雪だるま出現(雪の日)4位



▲勝っても涙、負けても涙(校内球技大会)5位



◀「ウエルカム」6位  
◀「ロータリー交換学生来校」



▲歴史が消えてゆく(記念講堂前のさくら切断)かつては、美しく校庭を彩った(昭和60年 春)6位



◀調理科生の料理で祝う(中学生立志式)7位



◀「先生なにができるんです?」(キャンプ)7位



巻頭言

私学の自信と誇り

校長 須賀 淳



栃木県教育委員会が毎月編集・発行している「教育とちぎ」という広報誌があります。この雑誌は、主として公立学校の先生方が読む雑誌ですから、公立の小・中・高校の先生方の記事や教育委員会の記事が掲載されています。その「教育とちぎ」の巻頭言に原稿を依頼されたので、「私学の地位」という題で次のような文を書きました。  
公立学校の関係の方々ばかりでなく、私学の関係の方々や生徒の皆さんにも読んでいただきたいと思い、その一部を掲載させていただきます。

私は、祖母が明治時代に宇都宮に創立した私立の女学校の中で生れ、そして育ったのですから、戦前・戦中・戦後の私学の苦勞というものを身をもって知っています。戦前は、教育

生徒会役員



会長 石川智子

副会長



副会長 落合 純



副会長 神山佳代

会計



会計 小林明子



会計 今井なおみ

庶務



庶務 渡辺陽子



庶務 高野吏恵子

議長団



議長団 五味潤敏範



議長団 赤上陽子

議長団



議長団 新村正治



議長団 高橋めぐみ



▲校長先生もサービス、伴奏するのは教頭先生(謝恩会)9位



▲湖畔の夕暮れ、楽しい食事のひととき(裏磐梯キャンプ)9位



▲こども生徒会からのプレゼント(敬老の日)10位



▲これも社会人の心得(テーブルマナー講習会)10位



は国の事業であるという考え方から、私学は公立学校の補完としての地位しか与えられていませんでした。また世間一般も官尊民卑の気風が強かったので、私は子供心にも悲しい思いをしたことがあります。しかし戦後は、私学振興という国の政策もあり、また私学関係者の努力もあって、私学が大きく発展充実し、その地位が向上しましたので、私学も尊重されるようになり、戦前のような思いをすることは少なくなりました。今や私学は、「教育は私学から」、「私学は一つ」の合言葉のもとに、それぞれ特色を発揮し、お互いに切磋琢磨しながら、公立学校とともに日本の教育を担っているという気概のもとにがんばっています。

ところで、現在は中学校の卒業生の数が一時的に急増するいわゆる第二次ベビーブームの時期です。このため、その収容対策が大きな課題となってきましたが、栃木県ではすでに県立高校の新增設がその計画を完了し、さらに学級増や学級定員増が計画的に進められてきました。そしてこの県立高校の計画に対応して、県内の私立高校でも計画的に学級増等の措置がとられ、公私協調の実が上っています。この生徒収容計画も第二次ベビーブームの間もなく終り、つづいて急減期に入ります。この生徒収容計画もおした対応策となっています。

このように、本県において私学に対しても十分な配慮のもとに計画的な対策がとられているということは、私学教育が大きく評価されているからで、たいへんうれしいことであり、また大きな責任も感じます。そして私学の評価が高まるにつれて、私学の入学者のレベルも著しく向上し、本年度の高校入試においても私学の難化傾向がはっきりとあらわれています。

近年における本県各私学の大学合格状況を見ても、県立の進学高校と肩をならべて立派な成果をあげていることがわかります。したがって世間一般においても私学に対する理解が深まり、私学に学ぶ生徒たちも自信と誇りをもって勉学にスポーツに励んでいます。

今後、私学の教職員や卒業生、在校生のいっそうの努力により、私学に対する理解がさらに深まって、私学の地位がますます向上し、本県の教育に大きな役割を果たすことができるよう祈っています。



【校長略歴】 宇都宮高校、東京大学卒業、昭和二十四年文部省勤務、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長等歴任昭和四十三年須賀学園に戻る。

現在、須賀学園理事長、宇都宮短期大学長、同附属中学・高等学校長、宇都宮大学教育学部講師（教育法規担当）、日本私立短期大学協会常任理事、栃木県私学審議会委員、栃木県公安委員等







「私も図書委員」だった  
先輩が父(野口雨情氏)  
の全集寄贈



陽代さん  
町日が暮れる、  
日が暮れる」の  
メロディでおな  
じみの野口雨情  
といえは、全国  
的に知られた童  
謡作家です。宇  
都宮市羽黒下に  
住んでいた居宅  
跡が残っており、



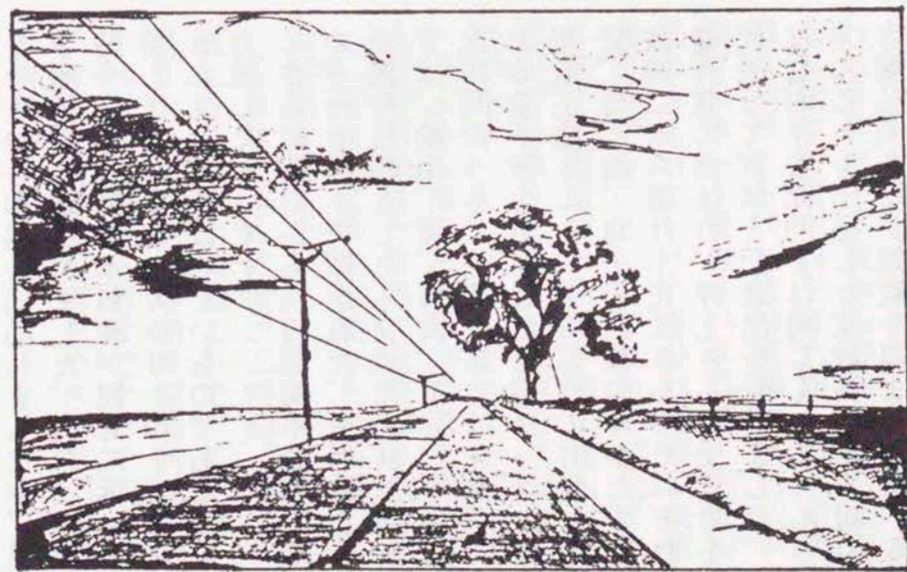
存弥氏  
都宮市羽黒下に  
住んでいた居宅  
跡が残っており、

関係の深い人ですが、その四女の大  
陽代(おとしあきよ)さん(五四)  
は本校の卒業生で、十一月三日の文化  
の日に、お父様の全作品を収録した、  
「野口雨情全集」を母校である本校へ  
寄贈して下さいました。  
大年さんは、昭和二十六年に本校を  
卒業なさいました。ご両親と一緒に戦  
争のため宇都宮へ疎開してこられ、い

ろいろと戦中・戦後の苦しい体験をし  
ながら本校を卒業すると、明治大学女  
子部法律学科に進みました。そこを卒  
業なさった後、最高裁判所の秘書課に  
勤務し洋書の輸入商であるご主人の仕  
事の関係から、現在は大阪府に住んで  
おられます。

全集にそえて送られてきた須賀校長  
先生宛のお手紙には、「私は母校の図  
書委員をしていたので、ぜひ母校の図  
書館の一隅にでも備えていただければ  
と思ってお送りいたしました。学生時  
代を顧みますと、高校時代が一番懐し  
く思い出も数々ございます。そして、  
いつも母校の発展を願っており、時代  
にふさわしい、すぐれた卒業生が輩出  
しますよう期待しております」とした  
ためてありました。

寄贈された「野口雨情全集」は全部  
で八巻の大作。大年さんのお兄様の宇  
中(現宇高)から早稲田大学仏文科を  
卒業し著述業として活躍、父雨情研究  
の第一人者でもある野口存弥(のぶや)  
氏が編集にあたっておられます。  
なおこの記事は、下野新聞紙上にも  
大きく紹介されました。



1-1 増淵 孝

告知板

11/20(土)まで

62年度役員

PTA総会開かる

昭和六十二年度PTA総会は五月三  
十日本校体育館で開かれ、次の新役員  
が決まりました。

- |       |             |
|-------|-------------|
| 会 長   | 松岡 祐祥 (鹿沼)  |
| 副 会 長 | 篠崎キミエ (宇都宮) |
|       | 渡辺 衛 (宇都宮)  |
|       | 荒木 猛男 (宇都宮) |
|       | 大根田 毅 (宇都宮) |
|       | 押久保 弘 (宇都宮) |
| 会 計   | 六川 彦次 (宇都宮) |
|       | 大野 幹夫 (宇都宮) |
|       | 松野 幹 (壬生)   |
| 会計監査  | 木村 喜一 (宇都宮) |
|       | 猪瀬 捷詔 (真岡)  |

- |      |            |
|------|------------|
| 顧 問  | 須賀 淳 (本校)  |
| 常任委員 | 大牧 泰三 (鹿沼) |
|      | 他 百七名      |

ことしから

PTA面談会

これまで夏休みに行われてきたPT  
A各支部総会は今年度からPTA面談  
会と改められ、本校を会場にして行わ  
れました。期日は八月八日から十日ま  
での三日間で、内容はこれまでと全く  
同じですが、主催が各地の支部から本  
校に移ったものです。

その折の恒例の生徒による作文朗読  
が今回も大へん出席された父兄に好評  
でしたが、その一つをお伝えします。

父母に願うこと

二年七組 船見小百合

今、父母に願う、を、と言われた  
ら私は返事に窺します。なぜなら今の  
学生生活に充分満足し感謝しているか  
からです。高校に入ってからこの二年間

で、本当に両親のありがたさを感じさ  
せられました。きびしい生活指導が徹  
底されている学校生活と寮生活の両方  
の体験は、一般の高校生では味わえな  
いことだと思えます。寮に入ったばか  
りの一年生の時は、家に帰らたくて何  
度泣いたことか、さみしくて、とめど  
なく流れる涙。その中で私は両親に対  
する感謝の気持ちがわいてきたのです。  
遠足の時、お友達がお母さんにつく  
ってもらって来たおいしそうなお弁当  
を食べているのを見て、自分のお弁当  
をふせてしまった思い出があります。  
けっして、寮のお弁当が粗末というわ  
けではありません。友達が、うらやま  
しくてたまらない気持ちだったのです。  
本当にさみしくなって、家に電話をし  
て親の声を聞くと、なつかしくて自分  
の声がふるえてくるのです。友達に言  
うと笑われるけど本当の話です。  
小さい時から黒磯に住んでいた私は、  
本校に入学して、宇都宮のことはよく  
分からず寮生活を始めました。友達も  
何もかもがはじめての生活です。孤独  
感を感じていた時、母から、電話がか  
かってきました。「元気で頑張ってい



る？」という問いかけに、心配させまいとした私の気持ちから、つらくてたまらないのに「すごく楽しいよ。」って言ったら、自然に涙がこぼれてしまいました。そして次に出了言葉が、「お母さん……」でした。私が少しさみしがりすぎるのかもしれないが、両親から離れるということは、こんなに悲しいものなのかと、実感しました。だから今の私は現在以上に父母に願うことなどありません。しいていうなら、高校を卒業したら、また両親と一緒に生活したいということですね。しかし、親から離れるということは、一つの大人への勉強と思っ、あと残り一年半を頑張ります。そして私は一生、この貴重な体験を忘れることはないでしょう。

お友達の中には、親から離れて生活している私をうらやましく思っている人がいるのですが、私はいつも言い返します。「親と一緒にいられて、ケンカする方が、ずっと楽しいよ。」って、すると友達はある顔をするけれど、親と一緒に生活できる時が一番楽しいんだと思います。

寮に入ったことでつらいことや、悲しいこともありましたが、それにもまして勉強になることが、二倍も三倍もあると思います。ですから私はあと残り少ない高校生活を大切に過ごしていきたいと思っています。

### 染色工場を見学

県高校研究会の家庭部会が毎年行っている産業教育生徒による見学会がありました。今回本校では服飾デザイン科のメンバーが、西那須野町にある染色工場を見学しました。次はその時のレポートです。

#### 下平清人

#### 染色工房を訪ねて

去る八月十二日(水)、私達服飾・手芸部員八名は、西那須野にある下平清人染色工業所を見学に行ってきました。気温も高く、風が少し吹く程度の暑い日でした。電車に乗って西那須野

駅で降りた私達は、バスが通っていないというので、車に分乗して北西へ十五分、細い道を右へ左へ折れながら着いた所が先生の工房でした。先生は快く私達を出迎えて下さいました。初めに案内された所はアトリエでした。書棚には美術に関する書物が数多く並べられ、部屋の片隅には民芸品や、素朴な調度品が置かれてありました。私達はそこで先生のお話を聞くことになりました。

染め物には、布地にろうで模様を描き防染し、これを染めあげ、ろうを取り除き白抜きにする「ろうけつぞめ」と、布地に模様(線)を描きその部分(線)を糸で絞って染色し、地色を残して模様を残す「絞り染め」などがあります。絞り染めは日本で最も古い染色技法で、インド・中央アジアあたりから中国・東南アジアを経て、京都を中心とした奈良時代に伝来し、現在まで至っています。また植物の茎やつるなどを図案化し、藍染の主流でもある唐草染、多彩で華麗な絵模様で、防染用のりで輪郭線を描き、内側を色ざししていく「友禅染」などがあります。

### 調理科生、自衛隊で実習

自衛隊宇都宮駐屯部隊の機関誌「男体」に次のような本校調理科生の調理実習が紹介されました。

#### 調理実習生の生活体験を終えて

お盆も静かに終えた翌八月十七日より、恒例となった宇都宮短期大学附属高校調理課程の生徒による調理実習が始まりました。前後段と二回に分け前段三十六名、後段三十三名、各々二泊三日、初めは不安と期待が入り混った緊張した面持ちで、入隊第一日は、申告、ベッド作り、基本教練、防衛講話、給食の概要について、厨房設備の説明等予備知識を詰め込まれ、さあ第二日目早朝よりの実習です。昨年までは隊員と同じく四・三〇起床し実習しましたが、眠さだけが残ってまるで睡魔と戦う訓練のようであったので、今年五・三〇起床六・〇〇作業開始、初めてみる広い厨房、大きな釜、機械など見るもの聞くものすべてもの珍し



▲染色工場を見学し実習する服飾デザイン部

先生の話を聞いていくうちに全てを理解することは出来ませんでした。独特の色彩や造型の素晴らしさに魅せられました。まだ熱もさめないうちに実際にやってみようということになりました。初めは自分の思い描いたデザインを紙に描きました。その人それぞれの個性が表われたデザイン画が出来ました。輪郭線を小刃で切り抜き、和紙を使って染めてみることにしました。「染めては乾かし」が何回もくり

返される工程の中で、やっと出来上がった作品を見て、歓声をあげてしまいました。めったに染め物を経験したことのない私達は、今までになげなく見ていた美しい反物が、このような作業で出来上がるのかと思うと、ただただ感動するばかりでした。猛暑の中を戸外と工房を出たり入ったりの仕事でしたが、出来上がった時は本当に嬉しかったです。

日本の古来から伝わる伝統工芸の染めに対する技術の素晴らしさなどが伝わって来ます。それは「作家は常に冒険をする。その冒険がやがて爆発につながる」という先生に対する賞賛にも表われ、染色家としての誇りと情熱とエネルギーがあふれる先生の生命をひしひしと感じました。

この見学を通して、多くの知識を得ることが出来、そして日本の伝統工芸の素晴らしさを理解することが出来ました。またこのような機会を与えて下さった先生方にお礼申し上げると共に、これからの人生に役立てて行きたいと思えます。



く驚きのようでした。実際に素材の裁断にあたっては、六十キロの胡瓜やキヤベツをせん切りに馬鈴薯をいちよう切りにと山に積まれた素材にうんざりのようでした。いつもでしたら胡瓜五、六本を切るのがせいぜいだと思います。でも包丁裁きはなかなかです。白衣を着、山高のコック帽をかぶってまな板に向かっている姿は早一流コックさんの姿のようです。我が厨房も一変してホテルカレストランの厨房のようで盛観であった。

またこの間の献立は手作りを主とする「チーズとんかつ」「ジャンボ串かつ」「ビビンバ」等々、八百五十枚の「チーズとんかつ」千九百本の「串かつ」最初ははりきって始まったが、三分の一位で飽きた感があった。後一年したら立派な社会人として調理士として果立つ彼らにとって意義深い体験であったと信じかつ営門を去る彼らに立派な調理士に成長せよと祈らずにはいられませんでした。〔平山栄養士〕

### 学校説明会のお礼状から

今年度の本校（高校）入試説明会は県内外の各中学校長先生が九月十一日に、また進路指導の先生方が九月十八日にそれぞれ行われました。これはその時の礼状からです。

中宮祠中学校長

小林 弘一先生から

三年四組 池田 薫さんへ

突然の手紙で驚くことと思いますが驚かないでください。

私は日光市中宮祠中学校長の小林と申します。はじめまして。

十一日の日は宇短大附高の入試説明会に行きました。実はその折におみやげとして池田さんの作品をいただきました。「絞り染め」大変よくできていました。立派な作品でした。記念品として、いつまでも私の部屋に飾っておきたいと思えます。ありがとうございます。校長先生や指導者の先生にもよろしくお伝えください。池田さんも卒業の年ですね。進学で

すか、就職ですか、いずれにしても立派な社会人になることを祈っております。お元気で、さようなら。

九月十二日

矢板中学校長

花塚 発先生から

三年一組 大野 有紀さんへ

謹啓 中秋の候、お元気に通学され学習に御精進のことと拝察いたします。過日（九月十一日）県内中学校長、大勢で貴女方の学校を見させていただき本当に感銘を深くいたしました。素晴らしい学校、そして生徒の皆様でした。

さて、私は貴女が一生懸命つくられたケーキをいただいて参りまして、家中で賞味させていただきました。本当においしいケーキでした。日ごろ熱心に学習されておられる結果だと思えます。本当にありがとうございます。貴女がさらに立派に成長されますようお祈りいたします。礼状が遅れましたことお許しください。

古里中学校長

新澤 彦治先生から

三年二組 中澤 早苗さんへ

前略 この度の学校説明会に出席いたし、皆様の授業を参観し、生徒一人一人の姿が生き生きと、目的意識をしっかりもって学習しており、大へん感動いたしました。

また手づくりの心のこもったケーキを頂戴した、本校の職員に一口ずつ分けておしくいただきました。

どうぞ残りわずかの高校生活を、さらに有意義にすごされますことをお祈りいたします。右御礼まで。

湯西川中学校長

竹内 次男先生から

須賀校長先生へ

呈上 先日、学校説明会に参加させていただき、大変ありがとうございました。貴校の生徒の生き生きとした活動ぶりに落着いた雰囲気を見て、その素晴らしい経営ぶりに感心いたしました。

陽南中学校長

大竹 幸雄先生から

三年四組 安生知津子さんへ

今日は宇短大附属高等学校へお邪魔し、校長先生から入学についての説明をお聞きしました。

おみやげに貴女の作ったすばらしい絞りぞめの作品を頂きました。

早速、家庭科の先生に見せましたら家庭科授業の模範作品に生徒に見せたことと、飾ることにしました。お礼を申しあげます。これからもがんばってください。

板荷中学校長

我妻 清野先生から

三年二組 福田 曜子さんへ

天高く読書の秋を迎える好季節となりました。

九月十一日の高校入試説明会にはお邪魔いたしました。大変勉強になりました。授業風景、試食会、音楽の演奏も大変立派にでき、一人が一校を代表する



## 編集後記

春の足音が近づいてまいりました。すでに入学試験も終わり、激しい競争率を戦い抜いて見事に合格し、さくら咲く四月に入学してくる新入生も決まりました。

そして卒業式です。進学に就職に、それぞれの進路に向かって巣立ちゆく三年生の皆様は、さぞかし希望に胸をふくらませていることと思います。この時にあたり、諸先生はじめ全校生の皆様に「ひめまつ42号」をお届けできることを、私たち編集委員一同心から喜んでおります。

今回は校長先生の巻頭言「私学の自信と誇り」をはじめ、皆様の数多くの作品、また先生方の作品欄「招待席」には長田善生先生の貴重な「ヨーロッパ研修旅行」のレポートや木嶋侯子先生の創作「雪国の春」などの大作をちょうだいすることができました。おかげで内容豊富ならずばらしいものになったことをお礼申し上げます。

とくにグラフ写真のページには、先きの校内展示会で好評を得た学園生活の記録写真のうちから、皆様の投票により選んでいただいた作品の上位多数を掲載いたしました。ご協力ありがとうございました。

本校では二年後に創立九十周年を迎えます。その記念事業の一つとして近代的機能を備えた大講堂の工事を進めております。今年秋には完成予定ですが「ひめまつ」の次号はその記念特集号とするため、すでに私たちは準備を進めています。どうぞご期待ください。

さいごに、今年もまた顧問の和久 誠、菊田民子、黒子仁の三先生にひとかたならぬご指導をいただきましたことを感謝申し上げます。  
(編集委員長・中村清子)

## 校史と校章

今年11月には88年の歴史を刻む本学園の創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展されていかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校へ改正され、更に、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校へ改名致しました。しかし、昭和57年の9月1日にお亡くなりになられ、この後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀淳先生です。先生は、宇都宮短期大学附属中学校を設置し、様々な功績をあげ、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自分で見捨ててはいけないという事です。「一人」という人間の価値を見逃すことなく、それぞれの価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校は、その価値のあり場を認識して、そのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えで、私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校が、現在に至るまでは、いくつかの校章がありました。現在使われている校章の由来は、須賀学園の「ス」をカタカナ文字で表わし、3つ合わせたものです。

「ひめまつ」第四十二号(非売品)

昭和六十三年三月十日印刷発行

宇都宮市睦町一番三五号

宇都宮短期大学附属高等学校

編集人 顧問 和久 誠

発行人 生徒会長 石川 智子

印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一

ヤマゼン印刷株式会社

印刷人 山本 征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

T320 TEL〇二八六〇四一六一―三番